

第3回大田区MICE推進会議 議事要旨（案）

日 時：令和元（2019）年 10 月 17 日（木）13：30～15：20

場 所：大田区役所 902 会議室

委員出席者：玉井会長、荻原委員（代理出席 朝日氏）、加藤委員、児玉委員、小橋委員、濱田委員、細島委員、宮澤委員、横内委員 ※ 五十音順（会長除く）

オブザーバー出席者：鈴木大田観光協会事務局長

小貫大田区文化振興協会事務局長

青木大田区産業振興協会事務局長代理出席 斉藤氏

1. 開会

事務局から、開会が宣言された。

2. 前回の討議内容について

資料1「令和元年度 第2回大田区MICE推進会議議事要旨（案）」に基づいて、前回の討議内容について事務局から説明が行われた。

また、第2回議事要旨（案）の発言内容等について意見がある場合は、10月22日（火）までに事務局に連絡するよう依頼があった。

3. 全国スポーツクラブ会議の開催に伴う経済波及効果（確定値）について

資料2「全国スポーツクラブ会議の開催に伴う経済波及効果（確定値）について」に基づき、事務局から説明が行われた。

（会長）

- ・ 宿泊業の視点から見て、この結果をどのように受け止めるか。

（宮澤委員）

- ・ 結果は今月の東京都南部地区ホテル会で報告することを考えているが、経済波及効果の値については、宿泊施設の多くはおそらく実感を持ってないと思われる。

（会長）

- ・ 地域に生じた消費金額より、施設の稼働率の方が実感につながるという意味か。

（宮澤委員）

- ・ その通りである。

（会長）

- ・ 民泊への宿泊についても、今回の経済波及効果には算入されているのか。

（事務局）

- ・ 民泊とホテル等の区別はなく、区内宿泊者として経済波及効果に算入している。

(会長)

- ・ 民泊も含まれているということであれば問題ない。民泊による影響は、今後より大きくなると考えられるので、民泊への宿泊を把握することは重要である。
- ・ 観光・娯楽費や土産・買い物費の支出単価が速報値よりも上がったのは何故か。

(事務局)

- ・ 補助金を支出する上で、可能な限り、区内の芸能・文化団体を利用したり、区内でのお土産購入を求めた。
- ・ 区からの求めに応じて、参加者が区内で積極的に観光・娯楽費や土産・買い物費を支出した結果、速報値の算出に用いた地域別に既定された単価よりも、参加者アンケートから算出された単価の方が高くなっていると考えられる。

(会長)

- ・ MICEによって生じた効果を隈無く捕捉できるようにすることは重要である。
- ・ 参加者による観光バス等の利用等はあったか。

(加藤委員)

- ・ 把握できていない。

(事務局)

- ・ 主催者から本事業における実績報告の中で、翌日実施したバスによる東京2020オリパラ大会の会場視察の報告も受けているが、利用したバス事業者までは把握していない。
- ・ 全国会議という性格から、参加者が広域から集まっており、国内移動費の単価が高い。近隣地区委員を対象としたものでは、ここまで大きな効果にならないだろう。

4. 大田区にふさわしいMICE推進体制について

資料3「大田区にふさわしいMICE推進体制について」に基づき、MICE推進体制について、事務局から説明が行われた。

(事務局)

- ・ 区では暫定的に助成金の支援のみを実施している。久留米観光コンベンション国際交流協会や福岡観光コンベンションビューローについては、補助金の支出だけでなく、円滑にMICEを運営できる仕組みづくりを行い、主催者とともにMICEを作り上げている点が印象的であった。

(会長)

- ・ 福岡市はグローバルMICE都市であり、先進的な取組をしているが、ユニークベニューは不足していることから、周辺市と連携してMICEを誘致していた。
- ・ 大田区としては、久留米観光コンベンション国際交流協会を参考にして、どのように東京都と連携できるのかが重要なポイントとなる。

(細島委員)

- ・ 福岡市や久留米市の事例が紹介されたが、市レベルでの取組に福岡県はどう関与しているのか。

(会長)

- ・ MICEの誘致は、基本的に市単位で取り組まれているが、東京のような大都市以外は、広域連携をしないとMICE、特に国際的なCを誘致することは厳しい。
- ・ MICEというと難しく考えがちだが、大田区は、まずは規模の小さなところをターゲットとするので、ミーティング・集宴会ビジネスをイメージすればよい。

(事務局)

- ・ MICEは経済波及効果をはじめ、区内に良い影響を及ぼすので、できる限り大田区内のホテル・民泊、会場を使って、組み立てたい。
- ・ 本年度、推進会議を通して検討を重ねたが、来年度すぐにヘッドクォーターを立ち上げることは難しいことを実感している。

(会長)

- ・ 確かに、MICEの誘致に取り組むことには難しい課題も多いが、ヘッドクォーターを組織することは、地域創生の核の一つともなる。

(大田区文化振興協会)

- ・ 私は東京2020オリパラ大会の開催が決まった6年前に、オリンピック・パラリンピック誘致の実務に携わっており、練習会場や事前キャンプ地を誘致すべく、区内のスポーツ施設や宿泊施設をまとめた資料を作成した経験がある。
- ・ ただ、資料の送り先となる国・地域を選定する際の、考え方の手がかかりも少なく、苦慮した覚えがある。もし6年前、そのようなヘッドクォーターがあれば、誘致を行う上で大きな支えになったと思う。

(会長)

- ・ MICE関連事業者間の利害調整を行って誘致に結び付ける上で、ヘッドクォーターの存在は重要だが、存在しないことは大田区特有の問題ではない。現在、各地で小規模なヘッドクォーターを作ることについて、観光庁と検討している。
- ・ 久留米観光コンベンション国際交流協会や福岡観光コンベンションビューローには、様々な立場から観光業に携わった経験を持ち、多面的にMICEを捉えることができる人材がいた。大田区でも、そのような人材を育成、あるいはスカウトすることが重要になる。
- ・ 航空業界としてMICEに関与することはあるか。

(細島委員)

- ・ 航空会社が直接MICEの開催に関与することはなく、あくまでも旅行会社からの依頼によって関与する場合がある。

(荻原委員〈代理出席 朝日氏〉)

- ・ グループの旅行代理店はMICEの開催に参与しているが、航空会社本体は、あくまでもエージェントを通じた参与である。

(濱田委員)

- ・ 資料3に示されている「ヘッドクォーターに必要な人材」は、全て自社で調達が可能であり、それほど難しい条件ではない。
- ・ 例えば、MICEの中でも製薬会社のMR¹⁾に対する研修は年間を通じ多数実施されており、自社では専門の部署を立ち上げ、製薬会社ごとに営業担当者を配置し、交通や会場、飲食の手配を担っている。
- ・ 自社の営業担当者は、場合によっては製薬会社に出向し、製薬会社と一体的になりながら、MICE事務局機能を担っている。これは資料に示されたヘッドクォーターとしての役割を自社が果たしているものである。
- ・ 自社で担当したいという意味合いはないが、大田区MICE推進におけるヘッドクォーターとしての役割を果たすことは、ある程度の期間をかけて大田区の考えをインプットすれば十分可能な範囲である。

(会長)

- ・ エージェントはMICEを運営した経験や能力を持った人材が豊富である。
- ・ エージェントから人材をスカウトした場合、中立的な立場でMICEの運営やプロモーションを行ってもらえるかという点が重要になる。
- ・ はとバスとしてはMICEに参与する意向はあるか。

(加藤委員)

- ・ 旅行会社から輸送の要請があれば対応できるが、MICE全体に参与することは難しいと考えられる。

(会長)

- ・ 参加者の輸送はMICEの重要な要素であるので、是非とも事務局にコミットして欲しい。
- ・ 資料3にヘッドクォーターの組織形態として、「外郭団体等による運営」と「ノウハウを有する民間企業への委託による運営」が挙げられている。
- ・ 今年度策定する戦略に基づき、来年度からMICE誘致を本格化させるにあたり、いきなりヘッドクォーターとなる組織を立ち上げる、もしくは、ヘッドクォーターの機能を外部委託することは難しいと予測される。
- ・ 来年度は、引き続き区が主体としてMICE誘致を行い、ヘッドクォーターのあり方を検討した後、外部組織による運営に移行することを提案するがいかがか。

(児玉委員)

- ・ MICEの誘致を始めるためには、大田区らしいMICE関連事業者との連携が重要になる。
- ・ ヘッドクォーターについては、どのような事業者と連携するのかによって、望ま

¹⁾ 医師や薬剤師に医薬品の情報を提供する営業担当者

しい組織形態が規定される。よって来年度を準備期間として検討を重ね、その後体制を作るべきと考える。

(横内委員)

- ・ 私もそう思う。

(小橋委員)

- ・ 同じく時間をかけた方が良いと思われる。

(事務局)

- ・ 会長からの提案にそって、今年度にMICE戦略の策定後、引き続き区が中心になってMICE誘致に取り組みつつ、並行して大田区らしいMICE誘致の体制を構築したい。
- ・ 来年度の具体的な体制構築にかかる検討は、実際の誘致体制を意識した少人数での検討としたい。
- ・ なお、大田区MICE推進会議の予算は今年度までであるが、来年度のMICE推進にかかる予算は、これから財政部門と調整する必要がある。調整の結果は次回の推進会議で共有したい。

(会長)

- ・ 令和2年2月に沖縄で開催される「ResorTech Okinawa おきなわ国際IT見本市」において、IT・輸送手段を組み合わせ、参加者が那覇空港から宿泊施設まで手ぶらで行くことができる実証実験を実施予定である。
- ・ 泉佐野市はエアポートMICEと称し、空港を核としたMICEに取り組んでいる。大田区でも羽田空港が立地していることを、他の自治体は大田区と連携するメリットとして提示し、連携した取組を行って欲しい。
- ・ 議論を発展させるためには、先進事例を調査することも重要であり、沖縄の取組を視察してはどうか。

(事務局)

- ・ 検討する。

5. 大田区内におけるユニークベニユーの提供可能性について

資料4「大田区らしいユニークベニユーについて」に基づき、大田区内でユニークベニユーとして提供の可能性が考えられる資源について、事務局から説明が行われた。

(会長)

- ・ 2年間の議論を経て、経済波及効果を重視する視点よりもむしろ、地域おこしの視点から小規模なMICEの開催を積み重ね、地域のステークホルダーに「MICEの開催に成功した」経験をしてもらうことで、「大田区らしいMICE」について区内の事業者に理解を広げ、将来的には中規模・大規模なMICEにも対応できる力を養うことが良いとの結論に至った。
- ・ 事務局には地域おこしの視点から、区内の資源を発掘してもらった。

(事務局)

- ・ 資料4でも紹介した「さかさ川通り」では、10月18日から20日まで「おいしい収穫祭2019」というマルシェが開催される。詳細については配布したチラシをご覧ください。

(会長)

- ・ 資料で提示されたような、大田区らしいユニークベニューに対する考え方について、何か意見は無いか。

(濱田委員)

- ・ 資料でも提言されているように、視点を広げれば、より多くのユニークベニュー候補を発掘できる。
- ・ 別件で区と訪問した京浜島の大田清掃工場は、清掃工場であるにも関わらず飲食を含めた見学者受入が可能な、他に例がない施設であった。ユニークベニューの候補の一つになるのではないか。

(会長)

- ・ 大田清掃工場は素晴らしい施設である。

(事務局)

- ・ 大田清掃工場は、2014年に竣工したとてもクリーンな施設であり、外国人による見学が多い施設となっている。
- ・ 屋上に芝生があり、飛行機が飛んでいる様子を間近に見ることができるので、観光分野で活用できないかと、区とJTBで検討したいと考えている。
- ・ 公共交通の便は悪いが、施設内に広い会議場があり、宴会も可能なので、ユニークベニューとして活用できるのではないか。

(会長)

- ・ 外国人は、日本人の意識していない資源を見つけることができるので、外国人のアドバイザーも必要ではないか。
- ・ 区として、外国人によるモニターツアーを開催し、潜在的な観光資源を発掘する取組は行っているのか。

(事務局)

- ・ 現在、タクシー会社と連携してモニターツアーを実施している。これまでに商店街などでモニターツアーを行った。次回はART FACTORY 城南島と大田市場で行う予定である。

(会長)

- ・ 区の資源を見に行くことと、外部の人材に区を見てもらうことを相互に行いながら、地域のステークホルダーと議論を進めることが、ユニークベニューの資源を発掘する上で重要だと考える。
- ・ 来年度も引き続き、MICE誘致を検討する場で調査を行えば良い。

(事務局)

- ・ 令和2年2月26日に、大田区総合体育館や大田区立勝海舟記念館、ヤマト運輸の羽田クロノゲートの視察を企画しており、本会議の委員にも是非参加していただきたい。

(会長)

- ・ 東京都では本年10月10日に柴又帝釈天をライトアップし、門前町の店舗を開放するユニークベニユールのイベントを実施した。東京都と連携してイベントを実施することが大切だと考える。ユニークベニユールの候補があれば、積極的に東京都に情報を提供して欲しい。
- ・ ユニークベニユールとなる資源をまとめた情報ツールを作り、エージェントや宿泊施設に対してメッセージを送ることが大切である。ユニークベニユールを広報する冊子をつくるのがよいが、新たに予算を獲得できないか。

(事務局)

- ・ 予算の確保には、財政部門との協議をしていきたい。

(会長)

- ・ ぜひ予算を確保していただきたい。

6. (仮称)大田区におけるMICE誘致の戦略とあり方(案)(部分骨子)について

資料5「(仮称)大田区におけるMICE誘致の戦略とあり方(案)(部分骨子)」に基づき、大田区におけるMICE誘致の戦略について、事務局から説明が行われた。

(事務局)

- ・ 来年度以降は、戦略に沿ってMICE誘致に取り組んでいくことになる。戦略(案)に対する意見をいただき、次回までに見直してとりまとめることとしたい。

(会長)

- ・ 戦略(案)については、既にお目通しいただいていると思うが、本日は会議時間が限られており、意見があれば次回開催までに事務局まで連絡してほしい。
- ・ MICEは経済波及効果の視点から語られることが多いが、それだけを考えると短期的な取組しか行うことができない。大田区では、経済波及効果はあくまでもMICEの取組が進んだ後に付随するものだという視点で、地域のステークホルダーにMICEに関与する場を提供し、MICEによる好影響をステークホルダーが実感する経験を積み重ねて欲しい。

7. 閉会

(宮澤委員)

- ・ 会議の主題とは違う話で恐縮だが、本日、蒲田駅改札口前で大田区の観光案内をしている方を見かけた。これは区の委託したボランティアか。
- ・ このような方とも連携を取り、どのような情報を持っているのか、観光客がどの

ような情報を求めているのか、情報共有を行った方が良い。

(事務局)

- ・ 東京 2020 オリパラ大会に向けたボランティアとして、東京都オリンピック・パラリンピック準備局が募集した「シティキャスト」とは別に、大田区独自に「おおたウェルカムボランティア」を募集し、約 300 人の応募があった。
- ・ 応募者は「観光」「スポーツ」「国際交流」の 3 分野から希望した分野を担当するが、観光分野のボランティアには、今年度から大蒲田祭等の区内イベントにおいて来場者とコミュニケーションを取るなど、試験的に実践の場を設けており、蒲田駅前でも活動していた方は、おそらくその研修中の方かと思う。

(会長)

- ・ 区の観光にプラスの影響を与える素晴らしい取組であるので、区民や、少なくとも観光に携わるステークホルダーには情報を共有してもらいたい。
- ・ 現在東京都では、観光案内所の偏在を解消すべく、200 か所、観光案内所を新設する取組を進めている。サイネージ等は都で用意するので、大田区や区内の事業者には積極的に立候補して欲しい。

(事務局)

- ・ 第 4 回大田区 M I C E 推進会議は令和 2 年 1 月 16 日に開催予定である。
- ・ 追加で第 5 回大田区 M I C E 推進会議を 2 月 27 日に実施したいと考えるが、いかがだろうか。

(会長)

- ・ 大田区 M I C E 推進会議を追加開催することについてはよろしいか。特に反対意見はないようなので、この日に追加開催することとし、本日は閉会とする。

以上